

シテ之ヲ查問窮述懲治スルヲ正サニ此典ノ未頒以前ニ同シ

第七條 左ニ列記スル所ノ辭ハ宜ク其下ニ附記スル

所ノ解説ニ從テ之ヲ理會ス可シ但シ文意判然トシ

テ別用スル者ハ是レニ泥ムヲ勿レ按スルニ此下二

アリ然レモ此文語ヲ通篇ニ譯用スルニ往々語路ノ

第八條 其罪名ヲ決定センカ爲メニ欺瞞ノ企欲アル

トヲ知ント要スル者ハ此企欲ノ有無ヲ以テ其罪否

處ニ散其罪犯ノ現ニ他人若クハ會伴若クハ國人若

クハ滙理ヲ欺瞞セント企欲スルノ跡ヲ事實上ニ看

取スル者ハ即チ其企欲スルトヲ決定シテ可ナリ

第九條 此典中ニ其行事若クハ其不行事ノ懲治ス可

キヲ述テ其施害ノ償金贖金填業賠金等此金ハ法律

償却金ノ名目ニシテ皆私訟法ニ因テ之ヲ償復要求ス可キ者ナリ

舉明示セスト雖モ受害者是レニ因テ其私訟要求ノ

權ヲ剝奪セラレタリト誤認スルト勿レ

第十條 此典中ニハ其官職守任若クハ法ノ授與セル

特別ノ權力ヲ褫奪セラル可キ事由及ヒ這樣ノ官吏

若クハ這樣ノ守任權力者ヲ參劾免罷降黜暫停ス可

キ合法的ノ官憲ヲ條舉明示セスト雖モ讀者是レニ

因テ這樣ノ褫奪法ヲ廢止シ若クハ參劾免罷降黜誓
停ス可キ合法的ノ官憲行爲ヲ變更セリト誤認スル
ヲ勿レ

第十一條 軍審官及ヒ其他ノ武官ニシテ軍人ヲ懲治
シ若クハ審官及ヒ其他ノ官吏ニシテ輕侮者ヲ懲治
スルハ法ノ授與セル權力ニシテ此典ノ能ク變更ス
ル所ニ非サルナリ

第十二條 此典ニ某ノ罪ニハ云々ノ懲治ヲ科スト云
フ者ハ皆其審院ニ委シテ之カ監別宣令ヲ行ハシム
ル者ナリ

第十三條 此典ニ一定ノ拘限ヲ掲ケス止メ甲ノ限ヨ
リ乙ノ限ニ至ルノ間ヲ以テスト云フ者ハ其審官ヲ
シテ長短ヲ其二限ノ間ニ量定セシムル者ナリ

第十四條 此典ニ證人ヲ詰究シテ得ル所ノ證據ハ其
證人ヲ公認スル時ニ引用ス可ラスト云フ者ハ偽誓
ノ審問ヲ包ンテ之ヲ云フニ非サルナリ

第二十條 凡罪辜若クハ公犯ハ必ス其行事企欲兼備
ハリ若クハ犯法的ノ怠惰アツテ而シテ後能ク云爾
ス可キ者ト爲ス

第二十一條 凡企欲ハ知覺アル罪犯ト其犯罪セル景

況トヲ併セテ之ヲ發見スル者ナリ愚呆瘋癲發狂者
ヲ除クノ外ハ皆知覺アル者トス

第二十二條 酒ニ酔テ是レ自ラ酔ヲ取レ罪ヲ犯セル

者ハ其罪ヲ宥メス然レモ若シ其罪辜ノ種類等級ヲ
定メンカ爲メニ其志向緣故若クハ企欲ノ有無ヲ辨
セシトヲ要スルモハ陪審乃チ其酔ヲ考按中ニ參入
スルコトヲ得可シ

○墾地利月千八百五十二年五月
二十七日布告

第一條 從來彼ノ千八百三年九月三日頒布ノ刑法ヲ

遵奉スル所ノ部内並ニ王國匈牙利哥羅瓦西亞哥羅
瓦西亞沿海地ヲ併有セル斯加拉尼亞大侯國シーベ
ンブニイルゲン藩屬セルピン、テメーゼル、バナート
大公國クラカウ等ノ諸邦トモ千八百五十二年九月
一日ヨリ以後ハ左ノ重罪輕罪違式律例ヲ奉シ凡本
條ニ舉ル所ノ案件ニ就テハ一ニ之ヲ以テ定例トシ
其罪科ヲ判決ス可キナリ因テ國內某部ニ於テ從來
右刑法ニ舉ルカ如キ案件ニ關シ本府指令ノ成法若
クハ慣法ニ原キ執行シタル所ノ例ハ唯リ屯田地並
ニ軍律ニ於テ一種特定スル法ヲ除クノ外本日ヨリ

一切之ヲ廢シテ復タ施行セサル可シ

第二條 本律ニ於テ重罪輕罪違式罪トシテ治ムル所

ノ例ハ又同日ヨリ總テ印刷書類ニ於ル此等犯罪ノ

處刑ニモ均ク適用スルモノト爲ス其他刑事裁判所

ニ於テ印刷書類ニ係ル犯罪ヲ治ムルニ方テハ又現

ニ朕カ允裁セル出版條例ヲ案シテ之ヲ決ス可キナ

リ是ヲ以テ同日ヨリ以後凡印刷書類ノ文意ニ於テ

典刑ニ觸ル、モノヲ處分スルニ就テハ敢テ復タ舊

時特例ノ出版輕罪トシ視ス乃チ朕カ統御スル疆土

中ニ嘗テ遵奉セシムル處ノ彼ノ千八百四十九年三

月十三日ノ出版條例ノ如キハ今後悉皆廢止セシム

可キナリ

蓋シ本律中ニ用フル所ノ印刷書類印刷物等ノ語ニ

係ル者ハ唯リ普通印刷書類而已ヲ指スニ非ス即チ

石版銅版木版凹型彫像等凡ソ器械力舍密作用ヲ以

テ思想ヲ表シ刑体ヲ摸スルノ類(文學及ヒ工術)一切

皆此中ニ包有セリ

第三條 (本條ニ係ル條例ハ一千八百五十三年七月二

十九日ノ治罪法

憲法彙纂第五卷中ニ出ツ

設立ヲ以テ之ヲ廢止

セリ)

第四條 本刑法頒布施行ノ効立ツノ日ヨリ以後凡犯罪ノ該法ニ照シテ重罪輕罪違式罪トシ處刑ス可キモノハ當然本書中ニ擧テ判然重罪輕罪違式罪ト明言スル者ニ限ル可シ

第五條 成例ニ合ハサル犯罪ニ係リ之ヲ處分スルニ固ヨリ本刑法ヲ將テ照準ス可ラス且此上ニ(第二條)記載セル附録中ニモ相涉ラサル時ニ於テハ之ヲ其所轄ニ致シ各一定ノ成規ニ從テ處分セシム可シ

第六條 爾他又暫時ハ諸國舊來施行セシ高利ノ律ヲ正ク延用シテ之ヲ變セサル可シ凡本罪ハ皆輕罪ト

爲シ從來輕罪審判所ニ於テ採用セシ裁判法ニ據テ之ヲ判ス可シ

第七條 總テ此成例ニ擧ル所ノ金位ハ皆定約通貨ノ純金一磅ヲ二十ニ分チタル「クルデン」ニ據ル故ニ刑法條例中ニ關係セル事件ニ就テ價額ヲ表出スル時ニハ必ス右ニ據テ之ヲ算定ス可シ

第八條 此成例中ニ掲載セル時限ハ一ニ曆用ノ年月ニ從フ

今者現ニ審案ニ付スル所ノ者並ニ本刑法公布ノ定日前ニ係ル犯罪ハ相比シテ苟モ其罪ヲ重クセザレ

ハ悉皆新例ニ準據シテ判決ス可キナリ

○薩克索月千八百六十八年十
日改革ノ刑法

第二條 國民ノ外國或ハ本國ニ於テ犯シタル罪ハ此

刑法ノ定規ニ準テ之ヲ罰ス可シ

第三條 本國或ハ外國ニ於テ犯シタル重罪ノ爲メニ

本國ノ裁判ヲ受ク可キ外國人亦此刑法ノ定規ニ準
テ罰ス可シト雖モ只下條第八ニ於テ記スル所ノ事
ヲ除ク可キナリ

第四條 萬國公法ノ規則ニ從ヒ本國ノ統轄ヲ受ケサ

ル特權ノ人公使或ハ使節等又ハ外國政府ヨリ其政府ノ
事務ヲ辨理セシムル爲メ此國へ差遣サレタル所ノ
人及ヒ其家屬並ニ本國ノ統轄ヲ受ケサル人ニ屬セ
ル僮僕等ノ罪ヲ犯シタル時ハ司法卿ノ指令ヲ受ケ
タル上本國ノ裁判所ニ於テ其裁判ヲ爲ス可シ

○丟靈厄斯的丁各邦千八百九十四年ノ刑法

第二條 國民ノ内外國ニ於テ犯シタル罪ハ本國ノ刑

法ニ從テ之ヲ裁判ス可シ

然レモ外國ノ法律ニ於テハ其犯シタル罪ヲ罪トセ

ス且本國政府及ヒ本國ノ君主諸官吏人民等ニ關係
セサルハ本國ニ於テモ之ヲ罰スルニ及ハス「チユ
シテ全クベツセヌ」ノ刑ニ於テ別ニ定メタル件アリ而
刑法第三
條ニ同シ

第三條 本國內ニ於テ罪ヲ犯シタル外國人ハ本國ノ
法律ニ從テ之ヲ裁判ス可シ
外國人ノ外國ニ於テ本國政府及ヒ本國ノ君主諸官
吏人民等ヘ對シ罪ヲ犯シタルハ亦本國ノ法律ニ從
テ其裁判ヲ爲ス可シ

○巴威也拉一千八百六十一年十月十日ノ刑法

第十條 國民ノ本國及ヒ外國ニ於テ犯シタル罪ハ本
國ノ刑法ニ依テ之ヲ裁判ス可シ
而シテ又本國ノ人民外國ニ於テ爲シタル事ノ外國
ニ於テハ之ヲ罪トセスト雖モ本國ノ刑法ニ於テハ
罪トス可キモノニシテ且本國ノ刑法ヲ逃レンカ爲
メ外國ニ於テ爲シタル時或ハ本國政府及ヒ本國君
主本國人民等ヘ對シテ爲シタル時ハ本國ノ刑法ニ
依テ之ヲ裁判ス可シ

第十一條 一人タリハ本國ノ人民ヲシテ其刑ヲ受ケ

シム可キ爲メニ之ヲ外國へ交與ス可ラス

「シヤフ、ハウゼン」州千八百五十九年四月三日ノ刑法

第三條 此刑法ニ準テ裁判ス可キ者ハ左ノ如シ

其一 内外國人ヲ論セス本州ニ於テ犯シタル重罪及ヒ輕罪

其二 本州人民ノ本州外ニ於テ犯シタル重罪及ヒ

輕罪本州人民ノ本州外ニ於テ此刑法ニ罰ス可キト定メタル所業ヲ爲シタル時其國ノ法律

ニ於テハ其事ヲ罪トセヌ或ハ輕キ罰ヲ受ク可キモノト爲シ而シテ其所業本州及ヒ本州ノ人民へ

對シテ爲シタルニ從テ之ヲ裁判ス可シチ其國ノ法律ニ從テ之ヲ裁判ス可シチ

其三 外國人ノ外國ニ於テ本州及ヒ本州人民へ對

シテ爲シタル重罪及ヒ輕罪瑞西全國ノ法律定規及ヒ特別ニ爲シタル外國條約ニ關シ

タル諸件ハ本條ヨリ之ヲ除ク可シ

○アツペン、チエル州千八百五十九年十月十六日ノ刑法

第一條 此刑法ニ定メタル所ノ刑ヲ用フ可キモノ左

ノ如シ

其一 本州ニ於テ内外國人ノ犯セル重罪及ヒ輕罪

其二 本州ノ所轄ニ屬スル人民ノ本州人民及ヒ本州ニ住居スル者

ヲ云外國ニ於テ罪ヲ犯シ而シテ其罪本州及ヒ本

州所轄ノ人民へ對シテ爲シタルモノナル時又罪人ヲ外國へ交與セサル場合ニ於テ外國ヨリ其罪人ヲ本州ニ於テ裁判セシコトヲ求ムル時瑞西全法律定規及ヒ外國條約ノ定款又特別ニ爲シタル外國條約ニ關セル諸件ハ本條ヨリ之ヲ除ク可シ

第二條 本州政府ノ允許ヲ得ヌシテ本州人民ヲ一人タリモ其罪ヲ受ケシム可キ爲メニ外國へ交與ス可ラス

本州人民ヲ瑞西國內ノ他州へ交與スルコトハ專ラ自他ノ盟約ニ從フ可シ而シテ瑞西國政事ニ關係セサル重罪及ヒ輕罪ヲ犯シタル外國人ヲ外國へ交與ス

ル亦其條約ニ從フ可シ若シ條約アラサルハ本州政府ノ決定ニ從フ可シ

○「ヘルス」州千八百六十六年一月三十日ノ刑法

第三條 本州ニ於テ爲シタル諸犯罪ハ此刑法ニ準テ之ヲ裁判ス可シ本州外ニ於テ爲シタル犯罪ハ法律上定規アル事ニ本州ニ於テ其裁判ヲ爲ス可シ
第四條 本州ノ人民ヲ一人タリモ外國ノ裁判及ヒ處刑ヲ受ケシム可キ爲メ瑞西各州外ノ國へ交與ス可ラス

○「ズリク」州千八百六十六年ノ刑法草案

第二條 此刑法ニ準テ裁判ヲ爲ス可キ者左ノ如シ

其一 本州人民及ヒ外國人ノ本州ニ於テ犯シタル
重罪及ヒ輕罪

其二 外國ニ於テ重罪及ヒ輕罪ヲ犯シタル本州人
民ヲ未タ外國ニ於テ無罪ト裁定セサル時

其三 外國人ノ外國ニ於テ犯シタル重罪及ヒ輕罪
ノ本州及ヒ本州人民ヘ對シテ爲シタル者ニシテ
其外國ヘ其裁判ヲ依頼ス可ラサル場合ノ時

瑞西全國ノ法律又萬國公法及ヒ外國トノ條約ニ於
テ特別ノ定規アル事件ハ此條ヨリ之ヲ除ク可シ
本州ノ所轄ニ屬スル本州人民及ヒ本州ニ人民ノ外
住居セル人民ヲ云フ人民ノ外
國ニ於テ本州ノ法律上ニ罰ス可キ者ト定メタル
ヲ犯シタル時其外國ノ法律ニ在テハ之ヲ罪トセス
或ハ輕キ刑ヲ受ケシム可キナル者ハ其外國ノ法
律ニ從テ此ヲ裁判ス可シ

○墾地利千八百六十七年ノ刑法草案

第三條 内外ノ人民ヲ論セス本國ニ於テ此刑法ニ罰

ス可キ者ト定メタル所業ヲ爲セル者ハ即チ此刑法
ニ準テ其裁判ヲ爲ス可シ

各國刑法類纂上卷終

正誤

- 九丁十行(表目)ハ(目表)
- 八十丁十行(錮禁)ハ(禁錮)
- 八十三丁四行(法方)ハ(方法)
- 百六十九丁四行(施放)ハ(施体)
- 二百四十九丁八行(第四十四號)ハ(第四十四條)
- 二百八十八丁三行(所)ノ下(ノ)ヲ脱ス
- 三百十九丁七行(卜居)ハ(卜居)
- 三百二十七丁八行(國民)ハ(國民)
- 七百二十三丁四行(徒刑)ハ(徒刑)

千キ十B-10

七百三十八丁五行(漈)ハ(滿)

七百八十九丁四行情狀ノ下(ナ)ハ衍字

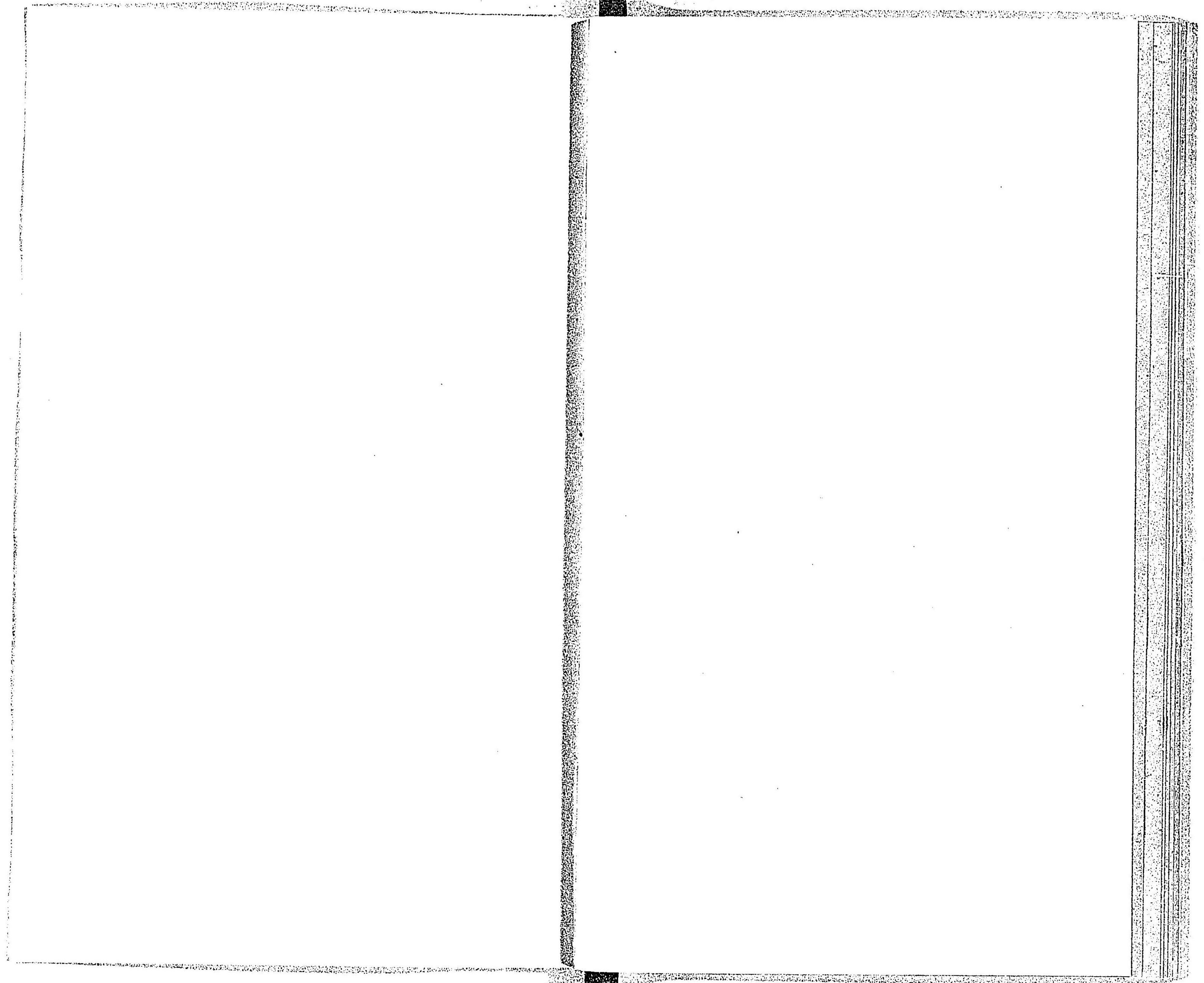
九百十四丁七行(子)ハ(ネ)

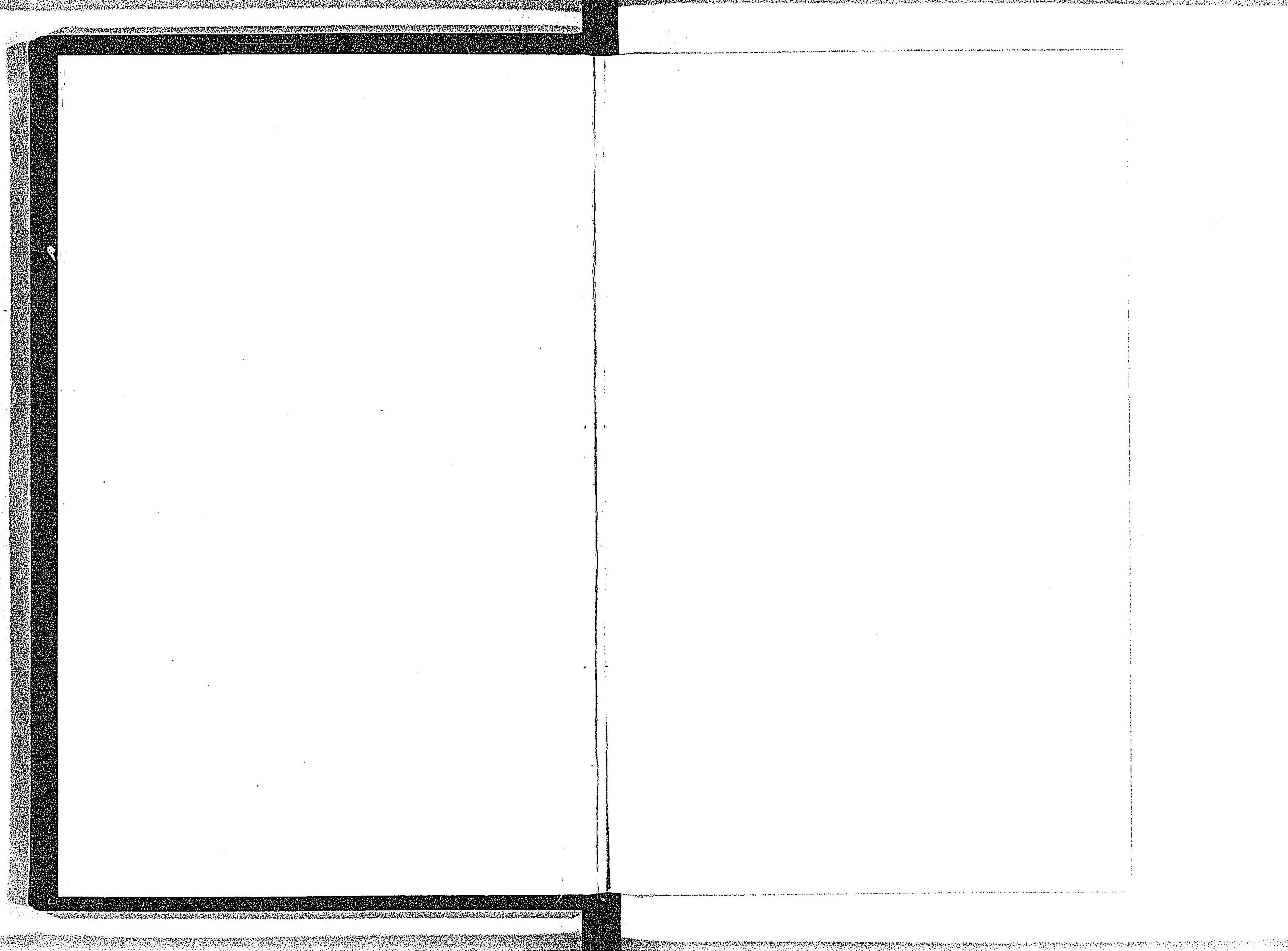
九百二十六丁七行(々)ハ(夕)

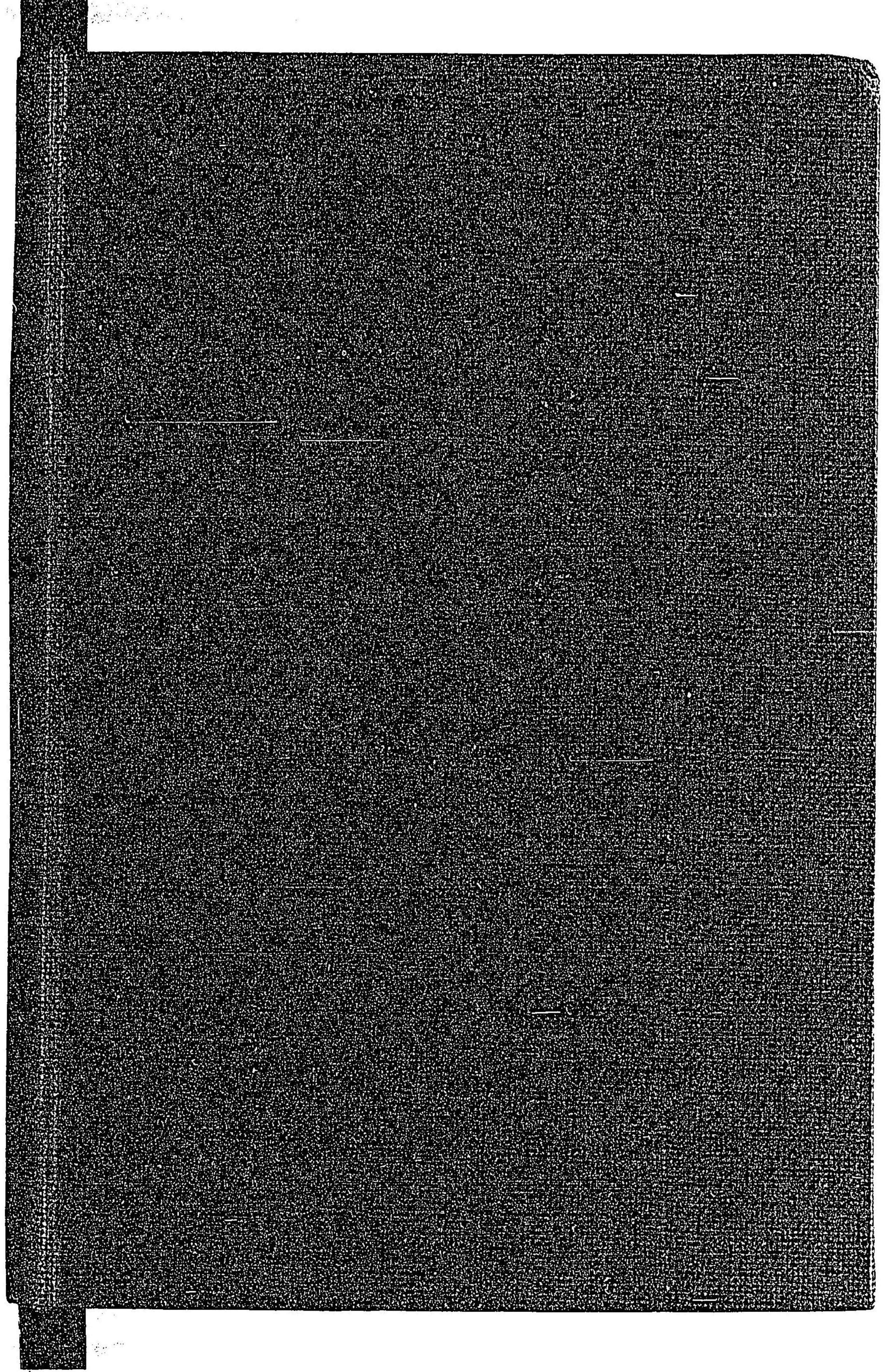
九百三十二丁八行(雖セ)ハ(雖モ)

九百三十八丁一行(州本)ハ(本州)

九百八十七丁六行(刑体)ハ(形体)







035560-001-6

C711-01

各国刑法類纂

司法省

上

M11-13

BBP-0104

